

質問-6 サトウキビ畑の雑草防除に関して、農業研究センターへの御要望はないでしょうか。

項目	内容
除草剤	<ul style="list-style-type: none"> ・他の作物で使用されている除草剤のスクリーニングの継続 ・登録のないグリホサート系除草剤のサトウキビへの適応拡大 ・つる性の雑草を枯らす薬剤の開発 ・雑草管理と害虫防除をリンクした対策（イネ科雑草内にメイチュウ類の若齢幼虫が多くいるとき、除草剤を処理するとサトウキビに移行し坪枯れが発生する）。 ・殺虫剤と除草剤の混用技術の開発 ・農薬散布量低減技術の開発
品種育成	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥反応が良く、吸肥力が強い品種の育成（雑草よりも早くサトウキビが生育する）
栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリフト低減技術の開発 ・オーガニック黒糖製造のための機械的除草技術の開発 ・尿素利用による除草効果の確認 ・動噴＋タンクをもっている農家は少ない。除草剤も背負式での散布機利用が多い。 ・イソウロン粒剤の使用
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤の普及していない地域に除草剤の使用法、効果等を普及、啓蒙する展示圃場を設置する場合、農家にわかりやすい形での設置方法をアドバイス頂きたい。

については、メーカーへ働きかける等、適用拡大を進めていきたい。

謝申し上げる。

謝辞

沖縄県農業研究センターの高江洲賢文氏には本報告を取りまとめるにあたり、多くの御助言を頂いた。記して感

引用文献

比屋根真一 2012. 沖縄本島南部地域におけるヤブガラシの発生と防除対策、九州の雑草 9-14.

田畑の草種

仏の座, 三階草 (ホトケノザ)

シソ科オドリコソウ属の一年生あるいは越年生草本。生長すると高さ 10cm ~ 30cm。茎の断面は四角、葉は対生で下部の葉には葉柄があるが上部の葉は無柄で茎を抱く。この対になった葉を蓮華座に見立てて「仏の座」の名がある。上部の葉の葉腋に花をつける。閉鎖花を多数つけるが、開放花は紅紫色の踊り子を思わせる唇形花である。

万葉の昔から、年の初めに野に出て芽を出し始めた若菜を摘むという慣わしがあった。

明日よりは春菜採まむと標めし野に

昨日も今日も雪は降りつつ (万葉集巻 8 山部赤人)

万葉の時代、歌に詠まれる若菜は、特定の草種に限定されていたわけではなく、春に芽吹く野草の総称とも考えられるが、鎌倉時代初期には「芹 薺 御形 繁縷 仏の座 松 蘿蔔」として七種が示され、正月 7 日の朝にこれら七種の野菜を粥

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

に炊き合わせたものを食す「七草粥」の風習があった。現代でもその風習は引き続いているが、今では、春の野で摘む代わりに、スーパーの棚でパック入りを求めることになる。そのパックの中には、「ホトケノザ」の代わりにキク科の「コオニタビラコ」が入れられている。

どんな図鑑を見ても、どんな七種の解説を見ても、「ホトケノザ」は「コオニタビラコ」であると説明される。これは、牧野富太郎の「植物記」によるものと思われるが、貝原益軒の「大和本草」や室町時代末期の「七草草子」では、七種に「田平子」と「仏座」がともにとりあげられてもいる。

万葉人は何を摘んだのだろうか。例えば、食用「仏の座」として同属の「踊子草」はどうだろうか。それとも、万葉人が摘むのは、「踊子」より「仏」の方がいいのだろうか。